社会科学習指導案

日　時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
学　級：第３学年〇組 〇名
場　所：３年〇組教室
授業者：〇〇　〇〇

１　単元名（題材名）

安全なくらしを守る　　内容（３）「地域の安全を守る働き」

２　単元（題材）の目標

・消防署や警察署などの関係機関を見学・調査したり、地図などの資料で調べたりしてまとめ、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解することができる。
・施設、設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することができる。
・安全なくらしを守る働きについて、主体的に学習課題を追究・解決しようとしている。

３　単元について

（１）　児童の実態

既習の「わたしたちの住んでいるところ」の学習では、「〇〇市のガイドマップを作って、お家の人に見てもらおう」という言語活動を設定し、ガイドマップを作るためにはどのような学習が必要なのかを児童とともに確認し、学習計画を立てた。市の様子を大まかに理解するために、地図や写真、資料から読み取れること、分かることを捉える学習を積み重ねてきた。また、校区内を流れる「〇〇川」の上流・中流・下流付近の様子にスポットをあて、「土地の様子」と「人々の生活の様子」を関連付けて考えることができるようになった。その際グループ学習を実施し、ホワイトボードにある資料や写真から分かることを付箋に書きため、情報をグループで共有したり、それらの情報を使って「土地」と「人々の生活」を関連付けて考えたりしてきた。さらに、「〇〇市のガイドマップ」を作る活動では、多くの児童が既習のワークシートを振り返り、ガイドマップの文章に活用したり、自分の体験や思いを表現したりして地元の子どもにしか作れないようなガイドマップに仕上げることができた。学習の中では、友達とのやりとりで得たことを表現する姿も見られた。ただ、学習を通して地域や生活における課題を自ら見いだし、その解決のために自分たちにできることを選択・判断したり、これからの〇〇市の発展について考えたりする力がやや不足している。

（２）　教材について

本教材は、安全なくらしを守るための消防署や警察署、地域の人々の仕事や取組を調べ、学習したことを生かして自分たちができることを話し合ったり、標語やポスターや安全マップなどで表現したりする単元構成である。特に児童は、１学期、△△小学校の近くで大きな火事が起こり、黒煙が立ち昇ったり救急車や消防車が何台も通り過ぎたりするのを目撃したことがあった。「先生、火事かな？大丈夫かな？」、「消防車と救急車は、火事の所に行くのかな？」、「何で救急車も行くんやろ？」と心配そうに話す姿が見られた。このような児童にとって、火事や事故といった緊急事態を想定し、人々の命を守るために誰がどのような働きをしているのかを調べていくことは、人々の安全を守る関係機関の相互の関連を考える力を養うことにつながる。また、児童に自分自身も地域社会の一員であるという自覚や自分たちにできることについて考える力を養うことができると考え、この教材を扱うことにした。

（３）　指導について

そこで本単元では、児童が学ぶ必然性を実感できる学習過程を構築できるよう、まず児童に学ぶ目的を自覚させることを重視したい。そのために「安全にくらすことができるひみつをさぐり、全校に伝えよう」という学習問題と学習の出口を明確にもたせたい。ただ、児童自身は「毎日安全にくらすことができている」と実感しながら生活しているかというと、そうではない児童が大半だと考える。身のまわりに潜む危険を知り、それでも自分は毎日安全に元気に生活できているんだという実感を伴った上での学習問題にするために、身のまわりで危険を感じたことを絵や文章で紹介する「危険カード」を作成したり、△△小学校区の事故マップや〇〇市内と旧〇〇市内の事故件数を示したグラフの事故データ等の社会的事象を提示したりして、身のまわりにある危険に気付かせることを大切にしたい。

また、児童には「なぜ自分たちが安全に生活できているのか」についての疑問をもち、疑問に対する予想を立て、調査内容を明らかにしていく姿勢を身に付けさせたい。児童が抱くであろう疑問として、「安全なくらしを守るために、消防署や警察署はどのような仕事をしているのだろう」と考えるだろう。さらに、「安全なくらしを守るために、信号や道路標識はどんな役割をもつのだろう」と設備に目を向ける児童もいるだろう。これらの疑問に対する予想としては、「消防士や警察官の仕事を知りたい」「〇〇市では火事や交通事故がどのくらい起きているのかな」「火事や事故が起きたら、消防署や警察署はどんな仕事をするのか調べたい」等が考えられる。地域の人々や学校、家庭の取組を予想する児童がいた場合は、その考えも大切に取り上げたい。このように学習問題の解決に向けて、児童自身が目的や計画や方法に見通しをもつことが、児童の主体性につながると考える。

さらに、３人または４人１組のチームになり学習問題を解決する学習活動を行う。「ひみつにせまろう会議」と題するグループ学習では、チームの友達と得た情報や考えを交流するやりとりを大切にしたい。１学期と同じようにホワイトボードを使ったグループ学習を通して、ひみつにせまるために必要な情報を取り出し、関係機関の働きや工夫、努力を捉えるだけでなく、友達と意見交流する中で自分では気がつかなかったことや他者の考えを理解する姿をねらいたい。また、１時間の授業の最後に分かったことなどを自分の言葉でまとめたり、振り返ったりする再構築の活動も大切にしていきたい。

最後に、単元の終末の振り返りでは、「なぜ安全にくらすことができるのか」という本単元を貫く学習問題について話し合わせたい。本学習を通して学んだことを基に、地域の人々が行っている火災予防、交通安全や防犯などに関わる活動の中から、地域社会の一員として自分たちにも協力できることを考えたり、自分自身の安全を守るために日頃から心掛けるべきことを選択・判断したりして話し合うことで、児童の思考力、判断力、表現力を身に付けさせたい。そして、何をどうやって全校に伝えるのかを、これまでのワークシートを振り返りながら討論し、表現活動につなげたい。この際には児童一人ひとりがより主体的に活動に向き合えるよう、「自分たちが知り得たひみつや考えを、全校の友達に伝えたい」という強い意識をもって取り組ませたい。

（４）　児童が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
Ａ…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 Ｂ…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	①…発見･蓄積：必要な情報を確かに取り出す ②…分析･整理：情報を比較し、関連付けて整理する ③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

・児童が目的意識をもつための手立てや工夫

「安全にくらすことができるひみつをさぐり、全校に伝えよう」という学習問題と学習の出口を明確にもてるようにしたい。そのためには、児童が「身のまわりにはたくさんの危険が潜んでいるのに、自分が毎日安全に生活できているのはなぜだろう」、「安全に生活できるひみつをさぐりたい」等の実感を伴った学習問題にすることが重要となる。具体的には、児童が身のまわりで危険を感じたことを

絵や文章で紹介する「危険カード」を作成したり、△△小学校区の事故マップや現〇〇市内と旧〇〇市内との事故件数を示したグラフ等を提示したりして、児童が実際の社会的事象と出会うことで身近な危険に気付かせることに配慮したい。さらに、児童の得た直接体験が目的意識をもつことにつながると考えられることから、実際に消防士や警察官、スクールガードから聞き取り調査する学習を設定する。

・児童が、何から、何を、どのように「発見・蓄積」するか

第１次、第３次のはじめでは、危険カードや〇〇市の事故マップなどの社会的事象と出会い、「身のまわりには危険なことがあるのに、なぜ自分たちは安全にくらすことができるのだろうか」という学習問題をもたせたい。その際には、危険カードや事故件数のグラフ等の実際の資料を用いたり、消防士や警察官、スクールガードから直接聞き取り調査を行ったりする学習を通じて、児童自ら目的意識をもって「発見・蓄積」ができるように配慮したい。

・児童が、何を、どのように、何のために「分析・整理」するか

第２次「火事から人々を守るために」では、学習問題を解決するために児童が考えた学習計画について、消防署や学校内の調査を通して「分析・整理」する。見学の目的を「消防隊員の仕事」、「通信司令室のしくみ」と明示し、グループごとに調査する内容を決める。児童自身が担当する調査内容について主体的に調査させたい。また、第３次「交通事故や事件をふせぐために」では、「安全にくらすことができるひみつ」を知るために、同じチームの３名が警察官とスクールガード、市役所の方のいずれか１名にインタビューする。そこで知り得たひみつ（情報）をチーム３名が共有するために、「ひみつにせまろう会議」で交流する中で、ＡとＢの二つの側面から「分析・整理」する姿を発揮してほしい。具体的な方法として、児童が調査して得た情報や考えたことを言葉で伝えたり、付箋に書いてホワイトボードで分類しながら貼ったりすることを通して、三者の取組における共通点、相違点を見つけることを分析・整理とする。

・育成したい資質・能力に照らし合わせて、児童がどのような「再構築」をするか

第２次、第３次ともに、調査して分かったことを児童が伝え合う活動を通して「再構築」に向かわせたい。具体的には、伝え合う活動の中で、児童が消防署や警察署、関係機関の活動や願いはつながっていて相互に連携していることや、地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることに気付き、理解する姿である。また、第４次では、「安全にくらすことができるひみつをさぐり、全校に伝えよう」について考えをまとめていくために、これまでの学習問題について考えてきたことをチームで一度振り返る。加えて、地域の人々が行っている火災予防、交通安全や防犯等に関わる活動の中から、地域社会の一員として自分たちにも協力できることを考えたり、自分自身の安全を守るために日頃から心がけるべきことを選択・判断したりする学習活動を「再構築」と捉える。また、全校にどのような内容をどのような形で伝えるのかを、これまでのワークシートを振り返りながら討論させ、自分たちができることを話し合ったり、標語やポスター、安全マップ等で表現したりする。さらに、他者の表現から、自分の知識や気付きを確かなものとして捉えさせたい。

４　単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消防署や警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて、関係機関などを見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、	①消防署や警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見いだし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え表現している。	①火災や事故から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり

関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。 ②調べたことを文などにまとめ、消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解している。	②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして警察署や消防署などの関係機関の相互の関連を考えたり、関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に地域や自分自身を守るためにできることを考えたり選択･判断したりして表現している。	見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとしている。

5　指導と評価の計画（全 15 時間）

※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	1	・事故、火事の写真を調べ、人々の安全を守る人に関心をもち、危険カードを作成する。	・前面掲示写真を大きくし、児童がより多くのことを気付いたり感じたりできるようにする。	・火事や交通事故、消火訓練や避難訓練等の写真を見て、地域の人々の安全なくらしを守る諸活動について関心をもっている。【態】（発言・ワークシート）
	2	・危険カードを紹介し、なぜ自分たちが毎日安全に生活できるのか疑問をもち、学習計画を立てる。 ・「安全にくらすことができるひみつをさぐり、全校に伝えよう」という学習問題をもつ。	・身近に多くの危険が潜んでいるが自分は安全に生活できていることを実感するために、家庭や地域で聞き取り調査をさせ、絵や写真などを使ってわかりやすい危険カードを作成させる。 ・学習問題に対する予想を立てさせ、今後の学習計画につなげる。	・消防署や警察署、地域の人々の安全なくらしを守る諸活動について関心をもち、学習問題に対する予想と学習計画を立て、本単元の見通しをもとうとしている。【態】（発言・ワークシート）
二	3	・火事について話合い、消防署への見学計画を立てる。	・見学の目的を「消防隊員の仕事」「通信指令室のしくみ」「消防車や道具・設備」に分類し、チームの中でそれぞれの児童が重点的に調査する内容を決める。	・消防隊員や関係機関が協力して消火活動している様子を捉え、見学計画を立てている。【思】（発言・見学カード）
	4 5	・〇〇消防署を見学する。	・見学して見つけた工夫や分かったことを「消防隊員の仕事」「通信指令室のしくみ」「消防車や道具・設備の工夫」のいずれかに分類できるよう、ワークシートを工夫したり、意識的に声かけを行ったりする。	・見学や聞き取りで、「消防隊員の仕事」「通信指令室のしくみ」「消防車や道具・設備の工夫」を見つけ、ワークシートにまとめている。【思】（ワークシート・聞き取りの様子）
	6	・「ひみつにせまろう会議１」消防署見学で分かったことを３名のチームで交流する。	・チーム３名で分かったことを交流し、３項目の共通点や相違点に気付き、「火事から人々を守る」ための働きや願いについて知るとともに、「安全にくらすことができるひみつをさぐり、全校に伝えよう」という学習問題の解決につなげることができるようにする。	・調査内容や分かったことを交流し、ワークシートにまとめている。【思】（発言・ワークシート）

二	7	・「ひみつにせまろう会議２」学校の消防施設を調べ、その配置図をもとに話し合う。	・チーム３名がそれぞれ異なる場所を担当し、調査後３名が結果を交流し、気付いたことを話し合えるようにする。	・校内の消防設備の配置図からどのような備えがあるのかを読み取っている。【知】（発言・ワークシート）
	8	・「ひみつにせまろう会議３」地域の消防設備と消防団の働きを調べ、なぜ消防団が必要なのかを知り、地域を守ろうとする消防団の人々の思いを考える。	・地域の消防設備配置図や消防設備の写真などを提示する。 ・児童の保護者などに消防団の方がいる場合は、ゲストティーチャーとして活用する。	・消防設備の配置の地図から気付いた工夫を読み取っている。【知】（発言・ワークシート）
三	9	・交通事故の資料から交通事故に関心をもち、身近な事故の傾向を調べ、「なぜ自分たちは安全に生活できているのか」についてのひみつにせまるための見通しをもつ。	・児童が交通事故に対する危機感をもつために、〇〇市の交通事故マップを示す。 ・身近に多くの事故が起こっているのに、なぜ自分たちは毎日安全に生活できているのか疑問（問題）をもち、問題解決学習に向かわせる。	・資料や話合いから、交通事故をなくすために働いている人々に関心をもち、安全なまちにするための働きや仕組みを調べる見通しをもっている。【態】（発言・ワークシート）
	10	・「安全にくらすことができるひみつ」を知るために、警察官とスクールガードと市役所の方に聞き取り調査をする計画を立てる。	・調査の観点を明確に示したうえで調査相手が同じ児童でグループを作り、インタビューの内容を話し合えるようにする。	・調査の観点に沿った質問内容を考え、ワークシートにまとめている。【思】（発言・ワークシート）
	11	・警察官とスクールガードと市役所の方に 聞き取り調査をする。	・チームの３名が自分の調査担当者に聞き取り調査ができるようにする。 ・調査の観点を明確にもつ。 【観点】事故防止や事故後の仕事、願いや思い ・知り得た情報を付箋紙に書き留め、次時で活用できるようにする。	・聞き取りで、それぞれの事故防止・事故後の仕事や願いを知り、付箋紙にまとめている。【思】（発言・聞き取りカード）
	12 本時	・「ひみつにせまろう会議４」聞き取り調査で分かったことや自分の考えをチームで交流する。	・ホワイトボードや付箋紙を活用することで情報を可視化し、警察官とスクールガードと市役所の仕事や願いについて気付けるようにする。 ・交流を通して、「消防署や警察署や関係機関の活動や願いはつながっていたり一致したりしていること」、「相互に連携していること」「地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていること」に気付かせる。	・調査内容や分かったことなどを交流したり、ワークシートにまとめたりしている。【思】 ・警察官とスクールガードと市役所の方の仕事や願いについて考え、説明している。【思】（発言・ワークシート）
四	13 14	・これまでの学習を振り返り、学習問題について考えたことをまとめ、学習問題の解決に向けての表現内容と表現方法を考え、表現する。	・一人ひとりがより主体的に活動に向かえるよう、「自分たちが知り得たひみつとまとめた考えを、全校の友達に伝えたい」という意識をもって取り組ませる。	・調べたことから、地域の人々の願いや目的を考え、自分も地域住民の一人であることに気付き、考えている。【思】（発言・ワークシート） ・学習したことを生かして自分たちができることを話し合ったり、標語やポスターや安全マップなどで表現したりしている。【思】（成果物・発言）

四	15	・成果物を全校に紹介し、「自分たちが安全にくらすことができるひみつ」がよく分かったかどうか感想を聞き、これまでの学習の振り返りをする。	・表現方法に適した紹介方法をすることを見通しとしてもたせる。 ・予想される紹介方法（標語やポスターの掲示や配布、校内放送による発表）	・「自分たちが安全にくらすことができるひみつ」について、全校に伝わるように紹介している。 【態】（発言） ・他者の成果物から、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【思】（発言・ワークシート）

学習過程　【学習問題をつかむ】　1・2・9時
【学習問題を追究する】3・4・5・6・7・10・11・12時
【まとめる】　8・13・14・15時

6　本時の目標（本時：12／15時間目）

警察官とスクールガードと市役所の方への聞き取り調査で分かったことを伝え合うことを通して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きや願いを考えることができる。

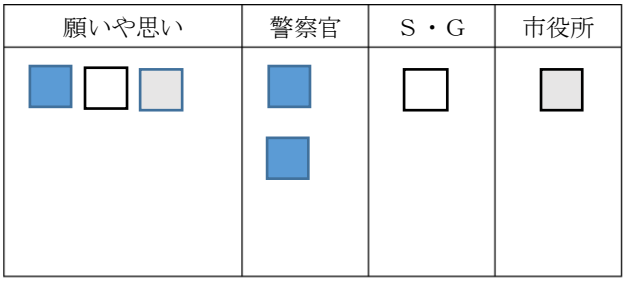
7　本時の評価規準

緊急時への備えや対応、安全を守るための取組に着目して関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、説明している。（思①②）

8　本時の展開　***※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準***

	主な学習活動等	指導上の留意点（・）　評価規準（□）
導入 5分	1　前時を思い出し、本時のめあてと学習問題を確認する。 めあて 聞き取り調さをして分かったひみつを伝え合い、安全なくらしを守るひみつをせつ明しよう。 学習問題 安全なくらしを守るために、警察署とスクールガードと市民活やくかの方は、どんな願いをもって、何をしているのだろう。	・聞き取り調査の写真や動画を見て、振り返ることができるようにする。 ・聞き取り調査で話された内容を要約した文章を掲示し、児童が確かめることができるようにする。
5分	2　学習活動の見通しをもつ。	・教師が活動のモデルを示す。 ・聞き取り調査で分かったひみつを伝え合えるよう、３～４人のチームでグループ学習を行う。 ・ホワイトボードをグループに１つ用意する。ひみつ（情報）を可視化するために、自分のひみつを相手に伝えながら、そのひみつが書かれた付箋をホワイトボードに貼る。 ・枠を設けたホワイトボードを使って「願いや思い」の付箋を移動させながら話し合う。

	【ホワイトボードの活用方法】	・話合いの際には、「なぜ、そう思ったのか？」、「どこからそう思ったのか？」等の理由を述べて話し合う。
展開20分	3　分かったことを伝え合う。（ひみつにせまろう会議４）	□調査内容や分かったことなどを交流し、ホワイトボードにまとめている。【思】（発言・ホワイトボード）
	4　警察官とスクールガードと市役所それぞれの取組や願いについて考え、学習問題に対する自分の考えをもつ。	・警察官とスクールガードと市役所の方の取組は同じことや異なることがあるが、どなたも安全なくらしを守るという願いをもっておられることに気がつけるように、もう一度今日の学習問題を確かめ、ホワイトボードの情報から答えを考えるように指示する。
10分		□警察官とスクールガードと市役所の方の取組について理解している。【知】（ワークシート）
まとめ5分	5　学習のまとめをする。	□学習問題に対する答えを考え、文章にまとめている。【思】（ワークシート） ・全体交流で出た考えを学級全体の考えとしてまとめる。



９　授業参観の視点

・児童が、聞き取り調査で分かったひみつを伝え合う活動に、必然性を感じて取り組めているか。
・可視化した情報を分析・整理することにより、警察官・スクールガード・市役所の方の取組や願いについて考え、説明することができているか。